



# くすっ子

《花いっぱい 夢いっぱい 笑顔いっぱい 屈巢小》

屈巢小学校だより

令和3年2月26日

No.11

## ICT の教育効果

ICTとは、「Information and Communication Technology」の略で、「IT企業」などに使われるITは「Information Technology」の略です。ICTは「通信技術を使って人とインターネット 人と人が繋がる技術のこと」、ITは「情報技術そのもの」と解釈されるそうです。学校教育においては真ん中にあるこの「Communication」が重要です。本市でも「GIGAスクール構想」の「ICT機器の活用により、新しい時代で活躍するために必要な資質・能力を育成する」という基本理念のもと、令和3年度から児童生徒一人一台の学習者用端末（PC）が貸与されることになりました。感染症等による臨時休校の場合でもリモート等により学習が継続して行えることも想定しています。市教育委員会ではこのPCを「文房具のように活用を図る」ことをねらいとしています。ICTの有効な活用により児童生徒の学習への興味関心、意欲付けや課題の探究、深化によって学力の定着・向上の効果が期待されるところです。

私事で恐縮ですが、教員になった昭和の終わりには、PCは一般的ではなく、文書作成機能のみの「ワードプロセッサ（ワープロ）」の出始めでした。中学2年の副担任だった私の仕事の一つ、保護者宛文書作成は「和文タイプライター」でした。ちなみに英語教員は「英文タイプライター」で学習プリントやテストを「打って」いました。その和文タイプライターが当時起きた「グリコ森永事件」の脅迫文に使われたタイプライターと同機種だということで警察が学校に捜査に来たこともありました。（かつては文書を「打つ」『タイピスト』が女性の憧れの職業だった時代もあったそうです。）そのうちワープロも普及し始め、2年後に私も購入し、そして8年後にはPCを購入しました。ワープロもPCも説明書を読んだりすでに使っている同僚に聞いたりして悪戦苦闘しながら使い方を覚えました。PCの一番の利点はインターネットにより居ながらにして様々な情報を収集できる点です。それまでは、授業準備のため、図書館で調べ物をしたり本を借りたり、書店で本を買ったり時には教材に出てくる土地に行ったりしたのですが、「キーワード」を打ち込み「検索」すればたちどころに求めたい情報がこれでもかというくらい出てきます。「総合的な学習の時間」では、子どもが環境問題や福祉・日本の伝統文化等テーマを設定して調べてまとめる学習をすることが多いのですが、情報をそのままコピーして貼り付けて終わりとならないように、できるだけ同じような情報でも比較検討させたり、課題の改善のための方策を考えさせたり、他者と意見を交流したりして多角的に思考して自分なりの考えをまとめさせるようにしています。

ITやAI等の技術革新により、今はない職業が出てきて、今ある職業が無くなると言われていきます。先の「タイピスト」は「国勢調査」の職業分類に平成2年以降に無くなりました。

いよいよ、児童のICT活用が始まります。児童が「文房具のように」使えるよう教職員も研修を重ね有効活用し児童の「生きる力」の育成に邁進します。 （校長 橋本 浩）